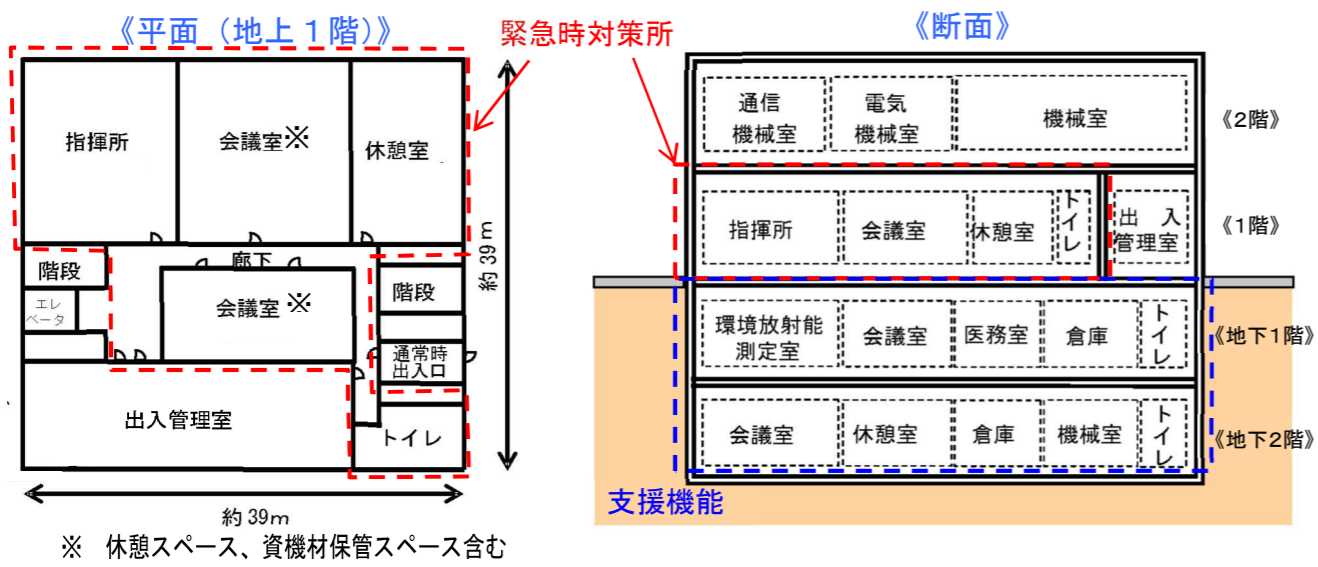


玄海原子力発電所 緊急時対策棟の設置に向けた取組み状況について

1. はじめに

- 玄海原子力発電所では、重大事故等が発生した場合の指揮所となる緊急時対策所について、新規基準に適合した耐震構造の「代替緊急時対策所」を設置し運用を行っています。
- また、会議室や対策要員の休憩スペースの拡充など、支援機能を充実させた耐震構造の「緊急時対策棟」を新たに設置することとしています。
- 「緊急時対策棟」については、2017年1月に原子炉設置変更許可（基本設計）を得ておりましたが、工事計画認可申請（詳細設計）の準備に時間を要していること及び詳細設計の進捗による工事物量の増加を踏まえ、完成時期を本年12月から2023年9月に変更します。
- 当社は、今後とも、緊急時対策棟の早期完成に向けて最大限の努力を行っていく所存です。

2. 緊急時対策棟



【緊急時対策棟仕様】

項目	仕様
建物構造	耐震構造（地上2階、地下2階）
延べ床面積	約 6,080 m ²
緊急時対策所面積	約 820 m ²
収容人数	緊急時対策所：最大 100 人
	地下1，2階：約 200 人以上

3. 変更の内容

- 玄海の緊急時対策棟については、2017年1月の原子炉設置変更許可受領後、緊急時対策棟の設置に向けた対応体制を構築し、工事計画認可申請の準備を進めてきました。
 - 同申請の準備にあたっては、本年6月3日に工事計画認可を得て確定した、先行する川内の審査内容を反映して、被ばく評価や耐震評価を行うとともに、配置設計や耐震設計を行う必要があり、時間を要しています。
- 【川内の審査内容の反映事項】
- ・対策要員の被ばく評価条件の見直し
 - ・耐震評価対象設備の追加

また、詳細設計の進捗により、工事物量の増加もあり、完成までに時間を要します。

【工事物量増加要因】

- ・放射線遮へい性向上のための壁厚増加
- ・火災防護設備の増加
- ・空調ダクト、電線管及びケーブルトレイの増加 等

○これらを踏まえると、完成時期は2023年9月となる見通しとなりました。

なお、2020年度のできるだけ早い時期には、国への工事計画認可申請を行います。

【緊急時対策棟設置工程】

		(年度)							
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
主要工程	変更前	▽許可受領 工認準備	▽工認審査	▽12月竣工					
	変更後	▽1/18 許可受領	▽工認準備	▽(6/3 川内工認受領)	▽審査内容の反映	▽工認審査	▽9月竣工		